

Title	質疑應答
Author(s)	
Citation	地球 (1929), 11(6): 471-472
Issue Date	1929-06-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/183606
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

例しない。生産高と需要との關係は六對五の割合である。故に實際ベッセマー開爐の生産能力は六千萬噸なるに對して、一九二八年の實際は五千萬噸を産したるに過ぎない。そこで最近米國製鐵業者は現状改善の必要を考へてきた、即ち工場及諸設備の現代化の計畫と實行である。例令は一九二八年中ミネソタ州の或大鐵山では、六百萬噸の鐵鐵を採掘したが、この鐵鐵全部は現場から、掬場、之を直接發出地迄輸送するのに巨大な電氣及蒸氣シヨベルを使用したから、採掘から輸送迄僅に四百人の勞働者を要したるに過ぎなかつた。その間一つとして人の手に觸れた鐵塊は無かつたのである。蓋しかうした設備によつて勞働者の伎倆及能力は益々進歩し工場設備の改善によつて、更らに勞働者及其家族の保護並慰安を計るやうになつたのである。

かくて一九二八年米國にて産出された鋼鐵地金の生産高は四九、八五三、二五噸、世界産出量の大半を占め、その殆ど全部が、米國內地に於て消費されて居るのであり、其原料たる鐵鐵の大部分は米國內地のものであるが、荷キユバ、チリ、アルセリヤ等の諸國から毎年多少の輸入を仰であるのである。

質疑應答

問 ロシアの最近の外國貿易と其事情(熊本I生)

答 一九二七—二八年度のソヴェエツト聯邦の外國貿易は

輸出七億七千三百九十萬留、輸入九億四千四百七十萬留、合計十七億萬留、内對歐國境貿易額十一億五千萬留に上つた。之を前年度の十四億八千三百二十萬留に比較して一割五分九厘の増加であるけれども、其貿易尻は却て一億七千八十八萬留の入超である。

こゝに新しいロシアの缺陷がある、革命後逐年漸減の歩調を辿り來つた穀物の輸出は、前年度迄は辛じてその類勢を維持したけれども、本年は激減して三千八百萬留臺に下つた。歐洲での穀物倉と稱された露國の貿易から、殆ど穀物の姿を沒せんとする有様である。一九二七—二八年度の外國貿易は實にロシア現下の經濟狀態を最善く反映する。

元來穀物輸出はロシア貿易の樞軸を爲し、輸入は唯其輸出に依りてのみ順調な發展を遂げて來たものであるから、穀物輸出の激減が、外國貿易の全般に亘り、重大な變化を齎すに至つたことは當然である。

穀物輸出減少に基因する貿易上のバランス填補について政府當局の取つた苦心の跡は統計にも現はれて、工業的農作物、畜產品、動物性産物の輸出は何れも前年度に比して顯著なる増加を示めてゐる、即ち穀物以外の農産物は前年よりも七千九百萬留、工業品は前年よりも九千二百五十萬留を増加した、しかし結局輸入超過に終つたことは、何といつても勞農政府の痛手である。従つてこの輸入超過に對し、政府當局者はこの超過は、クレサツトにて輸入したもののなるが故に、直ちに決済を爲すことを要せざるものであると説明をしてゐる

けれども、現在のロシアでは輸入の決済は、正貨現送に依らない限りは、輸出か、外資、又はクレヂットの外ないのであるから、この入超はソヴィエツト社會主義的建設事業に對する一大暗翳である。

革命前に於ける穀物の輸出は、國民の内に飢へ、之を外に輸出した結果なりとの説もあるが、實際今日では農民が貧澤になつてきて、一般消費が増加し、人口も増加したので、自然穀物の輸出に影響すると考へられる。とはいへ輸出穀物の減少した根本理由は、實に革命の結果、從來の農業經濟の全機構が破壊され、今日迄に生産穀物の大部分を市場に賣出した大地主又はクラークの土地が、中農及小農の手に分散され、其結果農業經濟が市場に最少限度の穀物しか搬出し得ない小農の手に基礎を置くに至つた爲であり、一面、國內の工業化は漸く其緒に就きたるに過ぎない状況であるから、工業製品の缺乏は、其價格と農業生産品の價格との間に非常な不平衡が出来、同じ農産物の中でも工業用の原料が高くなつて、穀物が安價になつたから、彼等は小麦をつくらぬやうになつたので、自然穀物の市場出廻りが困難となつたのである。

但し一九二七年度には穀物が凶作であつたことも輸出激減の一大因ではある、けれども彼等の社會主義的建設事業には、工業労働者の安寧が絶対に必要であるから、器械や原料はどこまでも輸入しなければならぬ。しかもその輸入が唯輸出によりてのみ可能である現状に於て考ふるときは、外國より輸

入せんためには前に外國よりクレヂットを得るか、或は輸出穀物の増加を圖るの二途しかない。而して穀物輸出の増進は、農業經濟の機構に變革を加へて集團經營主義の農園の發展を促進しなければならぬ、過去の大地主に代る所の、新しい大農制であるが、これを爲すにはやはり農具其他輸入の必要がある。外資を借入れる必要がこゝに存するが、果して然らば戦前の國債を棒引きにしたといふやうな政府に誰れが貸すであらうか、露國政府は米國の資本投下を歡迎してゐるが、利權の附與なしに、どうしてその資本が入りうるであらうか。茲に於てロシア當局の問題は輸入を抑制して、農村政策並に國內の工業化をしばらく緩和しなければならないであらうと考へる。蓋し貴族大地主の存在を邪魔にして、さて土地をその手から奪つた結果、今日では過去とちがつて二十萬戸以上の小農の手に穀物が保存されてゐる。しかもその穀物は工業製品に比べてあまりに安價である。どうして彼等はその粒々辛苦の穀物を手離して飢を欲するであらうか、しかも一方輸入品は原料、半製品、器械及裝置具等が大部分で、農業用器械及肥料は二億千七百萬留に達してゐる。即輸入の増加は工業化に必要なものばかりで、總輸入の八割四分三厘に達し、器械類についてはソヴィエツト市場は、世界の第一位を占めてゐるのである。かうした事情から考へると現在のロシアは一部の工業労働者も必しも幸福ではないが、大多數の農民に至つては最も不幸であると云はなければならぬ。何となれば彼等の產出物は今や最も價格が下落したからである。(F)